

よろずは

平成二五年

六月号

歌碑めぐり 4

今回も万葉文化館の万葉庭園に建つ歌碑をご紹介します。

片岡のこの向つ峰に 椎蒔かば 今年の夏の 蔭に比疑へむ

(巻七・一〇九九 作者未詳)

(訳) 片斜面の、この向かいの岡に椎を蒔いたら、若木の影を、せめて今年の夏の蔭に見立てられようか。

揮毫者は今井凌雪氏。この歌は『万葉集』に「丘を詠める」という題で載っているもので、片岡という片方が傾斜している丘のことが詠まれています。椎の種を蒔くことで木陰をもとめたいのですが、急速には生長しません。それがわかっていながら、それでも夏の暑さから逃れたいという願望を詠んだ歌とする説や、木陰での新たな異性との出逢いを期待した歌とする説などがあります。

今年の夏は心地よい風が通る万葉庭園の木陰でひと休みされてみてはいかがでしょうか。

【万葉古代学係】



タイトルの「よろずは」は、「万葉」を訓読みしたものです。